

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 2 部門第 5 区分
【発行日】令和 3 年 7 月 26 日 (2021.7.26)

【公開番号】特開 2020-100338 (P2020-100338A)
【公開日】令和 2 年 7 月 2 日 (2020.7.2)
【年通号数】公開・登録公報 2020-026
【出願番号】特願 2018-240946 (P2018-240946)
【国際特許分類】

B 6 0 S 1/38 (2006.01)

【F I】

B 6 0 S 1/38 B

【手続補正書】

【提出日】令和 3 年 5 月 27 日 (2021.5.27)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

表面にコーティング層が形成されたリアウィンドウ用樹脂ガラスと、当該樹脂ガラスの一部の表面を払拭するリアワイパと、を有する樹脂ガラス用ワイパ構造において、

前記リアワイパは、

前記樹脂ガラスに接触するように保持された弾性体のワイパラバーと、

前記ワイパラバーを保持するワイパホルダと、

前記ワイパラバーを保持した前記ワイパホルダを前記樹脂ガラスに向けて押圧しながら前記樹脂ガラスの表面に沿って往復揺動させるワイパアームと、
を有しており、

前記ワイパラバーは、

前記ワイパラバーの長手方向に直交する断面形状において、

前記ワイパホルダに保持される保持基部と、

前記樹脂ガラスの表面に沿う方向のラバー厚さがリップ厚さに設定されて、前記樹脂ガラスの表面に向かう方向のラバー長さがリップ長さに設定されて、一方端の側が前記樹脂ガラスに接触するリップ部と、

一方端の側が前記リップ部の他方端の側に接続されて、他方端の側に向かって前記ラバー厚さが厚くなる胴体部と、

前記ラバー厚さがネック厚さに設定されて、前記ラバー長さがネック長さに設定されて、一方端の側が前記胴体部の他方端の側に接続され、他方端の側が前記保持基部の一方端の側に接続されるネック部と、

を有しており、

前記ネック厚さは、前記胴体部の他方端の側の前記ラバー厚さ、及び前記保持基部の一方端の側の前記ラバー厚さ、と比較して薄く設定されており、

前記リップ厚さは、前記ラバー長さの全長に渡って一定であり、

前記リップ厚さに対する前記リップ長さの比率が、前記長手方向の全長に渡って 0 より大きく、かつ、2. 0 以下の範囲で一定に設定されている、

樹脂ガラス用ワイパ構造。

【請求項 2】

請求項 1 に記載の樹脂ガラス用ワイパ構造であって、

前記コーティング層の動摩擦係数が、 $0.3 \sim 0.6$ の範囲とされている、樹脂ガラス用ワイパ構造。

【請求項 3】

表面にコーティング層が形成されたリアウィンドウ用樹脂ガラスの一部の表面を払拭するリアワイパに用いられ、ワイパアームに支持されたワイパホルダに保持されて前記樹脂ガラスに向けて押圧されながら前記樹脂ガラスの表面に沿って往復揺動されるワイパラバーにおいて、

前記ワイパラバーは、

長手方向に直交する断面形状において、

前記ワイパホルダに保持される保持基部と、

前記樹脂ガラスの表面に沿う方向のラバー厚さがリップ厚さに設定されて、前記樹脂ガラスの表面に向かう方向のラバー長さがリップ長さに設定されて、一方端の側が前記樹脂ガラスに接触するリップ部と、

一方端の側が前記リップ部の他方端の側に接続されて、他方端の側に向かって前記ラバー厚さが厚くなる胴体部と、

前記ラバー厚さがネック厚さに設定されて、前記ラバー長さがネック長さに設定されて、一方端の側が前記胴体部の他方端の側に接続され、他方端の側が前記保持基部の一方端の側に接続されるネック部と、

を有しており、

前記リップ厚さは、前記ラバー長さの全長に渡って一定であり、

前記リップ厚さに対する前記リップ長さの比率が、前記長手方向の全長に渡って 0 より大きく、かつ、 2.0 以下の範囲で一定に設定されている、

ワイパラバー。